

あ ひと あ い
会いたい人に会いに行こう

そうむ すぎうらともこ
総務 杉浦智子

むかし ちゅうがくせい まいとし おお てれび なまほうそう うた いまわのきよしろう ろっくんろーる
昔、中学生のころ、毎年、大みそかにテレビの生放送で歌う、忌野清志郎というロックンロール

のバンドマンを見て、わたし しょうらいおとな ひと み ねんまつ す
のバンドマンを見て、私は将来大人になったら、この人たちを見て年末を過ごすことになるの

かな、とぼんやりと思ったことがある。しかし、とき おそ うち いまわのきよしろう
かな、とぼんやりと思ったことがある。しかし、時すでに遅し。ぼんやりしている内に、忌野清志郎

はこのよを去ってしまった。だからというわけでもないけど、会いたい人には会いに行こう！と

おもい、どくしんせいかつ おうか とき きかい なんかい え
思い、独身生活を謳歌しまくっている時に、そういった機会を何回か得たことがある。

みえけん ほんや しじん たにかわしゆんたろう い し すてき み い
三重県の本屋さんに詩人の谷川俊太郎さん（“生きる”という詩がとても素敵です。）を見に行っ

た。こうえん あと ほん さいん か なら め み つめられた。なんかもみす
た。講演の後、本にサインを書いてもらうために並ぶと、じっと目を見つめられた。何もかも見透

かすような、きれいな目をしていた。そのことがとても印象に残っている。

もう1回は、かい わたし けいあい よしもと しょうせつ つむ きっか いちど
もう1回は、私の敬愛する吉本ばななさんという、すばらしい小説を紡ぐ作家と、これまた一度

あ だらい らま せい わたし ぜったい のが ふたり たいだん
会ってみたかったダライ・ラマ14世との、私にとって絶対に逃すことができない2人の対談が

きょうと おこな だいす よしもと ぶんしょう あやつ なん ひょうげん だいたん
京都で行われたことがある。大好きな吉本ばななさんは、文章を操って何でも表現する大胆

な人だと思っていたが、じっさいは、おとなくつつまじやかな人だった。だらい・らま せい
な人だと思っていたが、実際は、おとなくつつまじやかな人だった。ダライ・ラマ14世は、

ちべつと ぼうめいせいふ せいきょうりょうめん しどうしゃ たちば し ちべつと しょうちょう そんざい
チベットの亡命政府の政教両面の指導者の立場を辞してもなお、チベットの象徴として存在

している。しかし、そのすがたは、“いだい ちち”というよりも、“みちか あに”というたたくまいで、

えねるぎー あふ あ とうける じぶん ぶんしょう
エネルギーが溢れていた。会ってみると受ける、自分だけにとっての印象というものがある。

それは、なんてことはないのだが、わたし だけのおもい 出になっで、ときどきおもい 返したりして

いる。

つぎ にこここほーむ なかしまけいこ
次はニコニコホーム・中島敬子さんにつなぎます。

低料第三種郵便物承認

平成 年 月 日発行（増刊）

A J Uニコニコハウス通信（第 号）（ ）